

2015年NPT再検討会議の関連行事等 への代表団派遣報告



2015. 5. 21 広島県生活協同組合連合会

1. NPT再検討会議合同代表団

- (1) 日本被団協 団長 谷口稜暉(日本被団協代表委員)
- 副団長 田中熙巳(日本被団協事務局長)
- 日本生協連 団長 本田英一(コープこうべ組合長理事)
- 副団長 高田公喜(広島県生協連専務理事)
- 副団長 岩永尚之(長崎県生協連専務理事)
- 副団長 和田寿昭(日本生協連専務理事)
- 日本被団協48名、45生協91名、合計139名
- (2) 広島県代表団のメンバー
- 箕牧智之、中村澄子(広島県在住被爆者)
- 高田公喜(広島県生協連)
- 上田久子、戸田真紀、森畠哲司(生協ひろしま)
- 小林卓也(広島生協) 合計 7名
- (3) 代表団派遣期間
- 2015年4月24日～5月1日

2. 広島県被団協・広島県生協連で壮行会



4月17日 壮行会の様子
坪井被団協理事長と握手する高田副団長

参加した集会

(1) 平和首長会議

「ヒロシマ・ナガサキアピール集会inニューヨーク」

(2) 平和首長会議 2015ニューヨーク

「首長には住民の生命・財産を守る使命がある」

ニューヨーク訪問に至る経緯の2つの大きな進展

(1) 被団協との合同壮行会(広島県生協連主催)の開催。

両被団協を含む代表団が集い共にNPT再検討会議の成功を誓いあった。

(2) 広島市が提唱している平和首長会議とのコラボの実現。

昨年から、広島市(広島平和文化センター)との交渉を重ね、日本生協連代表団として正式にニューヨークで平和首長会議が主催する集会への参加が実現できたこと。

3. ヒロシマからの代表団メンバー



箕牧さん、中村さん
他、被団協の方々は、
ニューヨーク滞在中、
外務省より「非核特使」
として委嘱された

前列左から箕牧智之さん・中村澄子さん、後列は広島県生協連 ・生協ひろしま
広島大学生協 （グループ⑫ 7名）

4. 広島県代表団の主な活動(4月26日)

(1) NGO共同主催行動(集会・平和パレード)

13時からユニオンスクエアで開かれたNGOの共同行動集会に参加しました。アメリカ・イギリス・メキシコ・フィリピンなど各国のスピーカーに続いて日本被団協の中村雄子さんが「ノーモアヒロシマ・ノーモアナガサキ・ノーモアヒバクシャ」を訴え、松井広島市長も登壇して、「核兵器廃絶にむけて平和のうねりを作り出していこう」と訴えました。

14時半ユニオンスクエアをパレードが出発。生協の代表団も被爆者の方々とともに3番街を行進しました。各生協が日本から準備してきた横断幕や折り鶴などをもち、核兵器廃絶への思いをアピール、国連本部近くのダグ・ハマーショルド広場まで行進しました。



平和首長会議を代表して挨拶する松井広島市長



国連軍縮担当上級代表アンゲラ・ケイン氏に核兵器廃絶の署名を手渡す松井市長

平和パレード参加者7,500人が、ニューヨークの街約3Kmを歩きました



先頭で被爆者の方と横断幕をもつ高田副団長

被爆者の中村さんも車いすで参加



コープこうべのみなさん



みやぎ生協のみなさん



大学生協連のみなさんと一緒に
の広大生協小林さん

5. 広島県代表団の主な活動(4月27日)

(1) 平和首長会議

「ヒロシマ・ナガサキアピール集会inニューヨーク」①

平和首長会議
とのコラボ
レーション

- (1) 核兵器禁止条約の交渉開始を求める署名の目録の贈呈
- (2) 「ヒロシマ・ナガサキアピール」を全員の拍手で採択
- (3) 被爆証言

平和首長会議「ヒロシマ・ナガサキアピール集会」で署名の目録をお渡ししました。被爆者、次代を担う若い人たち、平和な暮らしを願う生活者の声を結集し、ヒロシマ・ナガサキの悲願である1日も早い核兵器廃絶を広く世界に訴えることを目的に、平和首長会議の主催でヒロシマ・ナガサキアピール集会が開催されました。広島市長、長崎市関係者、国連事務総長代理、日本国外務大臣、広島県知事、被爆者、生協関係者、ユース関係者、平和首長会議加盟年関係者、NGO関係者など約100人が参加しました。生協からは団長・副団長はじめ14人が参加しました。

まず主催者の平和首長会議の会長である松井広島市長の挨拶の後、長崎市長(大久保平和推進課次長代読)、国連事務総長(バージニア・ガンバ国連軍縮担当次席上級代表代読)、つづいて岸田外相から「被爆地出身の外務大臣として、核兵器廃絶のために1歩でも2歩でも前進させることを目的にやってきた。身の引きしまる思い」との挨拶がありました。

「ヒロシマ・ナガサキアピール集会inニューヨーク」②

続いて、国連への平和首長会議要請文を松井市長が読み上げ、核兵器禁止条約の交渉開始を求める署名の目録を、生協代表団の本田団長からバージニア・ガンバ国連軍縮担当次席上級代表へ提出し、ユース代表からは折り鶴を手渡しました。

被爆者を代表して、中村澄子さん、田中重光さんが被爆の実相を訴えられました。その後、本田団長から「日本の協同組合として『平和とより良き生活のために』というスローガンのもとで、幅広い消費者・市民の活動として平和の問題に取り組んできた。ここニューヨークで、全世界に向けて被爆者の方とともに、核兵器廃絶に向けた願いを発信します。」とスピーチしました。続いて広島ユース代表の高校生、長崎ユース代表の大学生から平和の取り組みのプレゼンテーションがありました。最後にヒロシマ・ナガサキアピールを参加者全員の拍手で採択しました。



バージニア・ガンバさんに署名目録を手渡す本田団長



被爆者を代表して被爆の実相を報告する中村澄子さん

「ヒロシマ・ナガサキアピール集会inニューヨーク」③

「ヒロシマナガサキアピール集会」アピール声明(要旨)

1. 核保有国のリーダーは被爆地を訪問すること。
2. 今後の核軍縮交渉では、核兵器の非人道性について理解すること。
3. 核不拡散条約第6条にのっとり、誠実に交渉を開始すること。

(2) 被爆者レセプション



スピーチする松井市長

日本被団協が主催する
オープニングセレモニー
に、被爆者・国連及び政
府関係者とともに、生協
関係者も参加しました。



国連ロビー 原爆展

6. 広島県代表団の主な活動(4月28日)

(1) ニュージーランド政府国連代表部への要請行動

日本被団協、日本生協連が、ニュージーランド国連代表と面会しました。生協代表団の高田副団長から、核廃絶と世界の恒久平和、NPT再検討会議の成功への期待を込めて、要請文を渡しました。



ニュージーランド国連代表との要請行動の様子

(2) 被爆の証言(国連原爆展)

箕牧さん・中村さんが来場者に被爆の証言を行いました。箕牧さんは、紙芝居形式で、中村さんは、来場者に丁寧に証言をしました。広島テレビ局の取材も受けました。



多くの方を前に被爆の証言をする箕牧さん



一人ひとり丁寧に被爆の証言をする中村さん

(3) 被爆の証言(スカボロー長老派教会)

スカボロー(街の名前)にある教会で、箕牧さん、中村さんが被爆の証言を行いました。この活動には、中国新聞社のジュニアライターも取材のため参加しました。(参加30名)



- (左) 身振り手振りを交えて証言する箕牧さん
(中) 足が不自由な中、立って被爆の証言をする中村さん
(右) 自分たちの疑問をストレートのぶつけたジュニアライター

7. 広島県代表団の主な活動(4月29日)

(1) 平和首長会議 2015ニューヨーク

「首長には住民の生命・財産を守る使命がある」

平和首長会議
とのコラボ
レーション



松井市長



アンゲラ・ケイン氏

核兵器の非人道性にかんがみ、住民の生命・財産を守る立場から、各国の政治指導者へ核兵器禁止条約の交渉開始を促す平和首長会議「ニューヨークアピール」を採択し、世界に発信しました。

スピーチされた方

- 広島市長
- アンゲラ・ケイン国連軍縮担当上級代表
- 長崎市長
- 藤沢市長



世界各地で活動を引っ張る「リーダー都市」に就いた首長たちに認定書を手渡す松井市長



「核兵器廃絶に向けた市民社会の役割」をテーマとしてパネルディスカッションがおこなわれ、市民社会の役割りの大きさを確認した

(2) フランス政府国連代表部への要請行動

要請行動は1時間を超えました。

代表団を代表して高田副団長が、「被爆者と私たちの願いは核兵器の廃絶である」と要望書を手渡し、フランス政府代表は、「現実問題としてステップバイステップ段階的な核軍縮で核兵器の削減をしていく」と返答されました。



被爆者からは、「いつまで待てばいいのか」、「もう70年も私たちは待ち続けている」と問い掛けする場面もあった。



フランスでは「核兵器工場の閉鎖や今以上に核兵器を作らないことを国内法で定めている。核兵器の先制使用はしない。それが抑止の考えである。」。「核兵器を持っていない国への攻撃はしない」と付け加えられました。

要望書を手渡す高田副団長

各国国連代表部への核兵器廃絶の要請行動

2015NPT再検討会議で要請行動をおこなった各国代表部

(10か国)

英国政府代表部、アメリカ政府代表部、オーストラリア政府代表部、マレーシア政府代表部、日本政府代表部、ニュージーランド政府代表部、フランス政府代表部、アイルランド政府代表部、メキシコ政府代表部、スイス政府代表部



フランス政府国連代表部と生協代表団

学校や教会などでの証言活動の箇所数

4月25日～29日で、合計25か所(内、広島県代表団は2か所)

(3) ルネサンス・チャーター学校での証言

生徒たちは、被爆者の話を時には笑いながら、時には泣きながら聞いていました。各々が証言活動で感じたことを、理解しようという姿勢が見られました。最後に広島から持って行った缶バッチを配りました。(参加100名)



生徒の皆さんに証言する箕牧さん



みんな真剣に聞いていました



中村さんの証言をわかりやすく通訳していただきました



生徒さんに喜ばれた缶バッチ